東武鉄道スペーシアX、青みがかった白い車体の豪華特急

#ローカル線 #インバウンド #新型コロナ

2023/4/17 19:01 (2023/5/2 17:30 更新)

東武鉄道は東京・浅草―東武日光・鬼怒川温泉間を走る新型特急「スペーシアX」を埼玉県久喜市の車両基地（南栗橋車両管区）で公開した。青みがかった白い車体、展望室やラウンジを備えた豪華な車内など、東武の新たなフラッグシップ車両がベールを脱いだ。

特徴の一つが外観だ。運転席のある先頭車両は「流線形」と呼ばれる形状で、シャープな印象を受ける。

スペーシアXを発表する東武鉄道の根津嘉澄社長㊥

近畿日本鉄道の名阪特急「ひのとり」、東京と静岡県の伊豆半島を結ぶJR東日本の「サフィール踊り子」に似ているが、ひのとりが深紅、サフィールが濃い青をまとうのに対して、スペーシアXは白。

もっとも純白ではなく、日光東照宮陽明門に塗られた「胡粉（ごふん）」に着想したもので、光の当たり方次第で青みがかって見える。鹿沼組子など沿線の伝統工芸品をイメージさせる窓枠とあわせて神秘的な雰囲気が漂う。

青みがかかった白い塗装が施された新型特急「スペーシアX」（埼玉県久喜市）

6両編成で、浅草行きの先頭6号車に最上級の「コックピットスイート」と個室タイプの「コンパートメント」、東武日光・鬼怒川温泉行きの先頭1号車に生ビールやコーヒーを飲めるコックピットラウンジを設けた。2〜5号車は座席車両だ。

浅草―東武日光・鬼怒川温泉の特急料金はスタンダードシート（3〜5号車）が1940円。プレミアムシート（2号車）は2520円と少し高いが、後ろを気にせず背もたれを倒せる。コンパートメントは1室あたり6040円、コックピットスイートは1室1万2180円が、それぞれ人数分のスタンダードシート特急料金に加算される。

東武日光・鬼怒川温泉行きの先頭1号車に設けられたコックピットラウンジ。カウンターで注文すれば座席で生ビールやコーヒーを飲める（埼玉県久喜市）

7月15日から2編成で運行を始め、その後2編成を追加する。浅草と東武日光・鬼怒川温泉を、月〜水曜日は2往復、木〜日曜日と祝日は4往復運行する。特急券は6月15日午前9時から、インターネットや駅の窓口などで発売する。

東武のフラッグシップ車両とあって、鉄道ファンの注目度は高い。3月、車両を製造していた日立製作所笠戸事業所（山口県下松市）から機関車にけん引されて運ばれるという情報がSNS（交流サイト）で広がり、関東以西ではなじみの薄い東武の新型車両を撮影してSNSに投稿するファンが多かった。

スペーシアXの運転開始に伴い、1990年に登場したスペーシアとの「世代交代」が進みそうだ。群馬県館林市にある北館林車両解体場（旧北館林荷扱所）で解体された車両もある。

栃木県の日光・鬼怒川方面を結ぶ特急「スぺーシア」は1990年に導入された

東武は2017年に特急「リバティ」を導入しており、ビジネス需要は「リバティ」、ぜいたくな旅を楽しみたい観光客には「スペーシアX」と、ニーズに合わせて利用してもらう戦略だ。

新型コロナウイルス禍が落ち着き、JR日光線もインバウンド（訪日外国人）で混雑し始めている。スペーシアXが日光・鬼怒川の観光復活の起爆剤になるかもしれない。（苅谷直政）

【関連記事】

・東武鉄道・スカイツリートレインが野岩鉄道に「応援」

・東武鉄道、新型特急「スペーシアX」運行予定を発表

・宇都宮LRT、駅西延伸計画で軌道設計・安全対策に制約

・東武特急リバティで両毛地域の農作物を輸送　都内で販売